

委員会活動 報告書

日本技術士会中国本部防災委員会

事業名称	令和5年度第1回WEB防災講演会・ライブ配信 公益社団法人 日本技術士会 中国本部防災委員会：(一社)建設コンサルタンツ協会 中国支部：共催、広島県災害復興支援士業連絡会：協賛		
実施時期	2023年8月2日(水) 13:00~17:00		
実施場所	広島弁護士会館(集合, Teamsを使ったWeb配信) 鳥取、倉吉、山口、島根の各拠点会場での集合形式と自宅等での個人視聴		
参加人数	480名(会場計120名, オンライン360名)	CPD	3時間30分
事業内容 と感想	<p><u>テーマ：「専門家連携による災害復興支援の進め方」</u></p> <p>13:00 開会挨拶 (一社)建設コンサルタンツ協会中国支部支部長 小田 秀樹 氏</p> <p>13:10 講演①「大規模災害に備え、支援者に求められること」 神戸大学名誉教授・減災・環境デザイン室顧問 室崎 益輝 先生</p> <p>14:10 講演②「建築士として近年の災害を経験して思ったこと」 (一社)岡山県建築士会(岡山士業連絡協議会会長) 塩飽 繁樹 先生</p> <p>15:10 休憩 (10分)</p> <p>15:20 講演③「福祉専門職による防災、減災の取り組み」 公益社団法人 広島県社会福祉士会会長 三上 和彦 氏</p> <p>16:50 講演④「災害復興支援における士業連携～弁護士から見た士業連携の重要性～」 広島弁護士会災害対策委員会委員 砂本 啓介 氏</p> <p>16:20 講演⑤「災害に強いまちづくり、平時からの取り組み」 広島県会議員 西本 博之 先生</p> <p>16:50 閉会挨拶 (公社)日本技術士会中国本部防災委員長 山下 祐一 氏</p> <p>大規模災害発生後の災害復興を考えた場合、被災者の生活再建や復興まちづくりを早期に進めるためには、被災者と行政と専門家連携が重要と考えています。</p> <p>室崎先生からは、巨大災害時代となり、防災態勢の劣化とともに災害対応の転換、復興ニーズの変化の時代になりました。災害後のニーズに応えるには協働連携の態勢が重要で、人材の確保と専門家の連携、行政ともつながる連携協働システムを作り上げる必要があるとのことでした。</p> <p>塩飽先生は、建築士として阪神淡路大震災をきっかけとして、2018年7月の西日本豪雨災害では真備町など岡山県内の浸水災害支援に対応されました。現在、士業連携と建築士の会長として、今後の課題をまとめられ、地域のコミュニティの重要性、最低の基準を定めている建築基準法から安全な建築を作る必要性を話されました。</p> <p>社会福祉士会の三上会長からは、2018年の西日本豪雨災害後の被災者支援の様子とともに、内閣府が2023年3月に示した災害ケースマネジメント手引きによる被災者の自立・生活再建の取組を行っています。防災力向上研修として、個別避難計画を向上させる取り組みの現状のお話をされました。</p>		

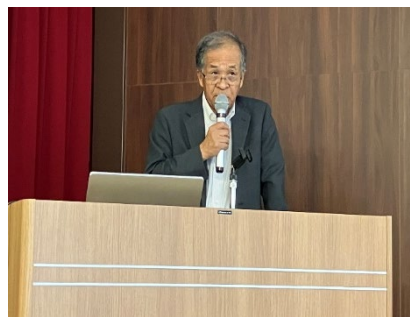
広島弁護士会の砂本先生は、2014年、2018年の大規模災害後の被災者支援、被災者相談対応を実施し、災害発生後しばらくしての士業連携による復興まちづくり支援、災害ADRでの協力、政府や行政への働きかけの活動を通じて、士業連携の重要性を指摘されました。

広島県議員の西本先生は、2018年7月の西日本豪雨災害の広島県の防災体制、取り組み内容を説明され、災害に強い広島の実現に向けて、広島県「みんなで減災」県民総ぐるみ運動・五つのアクション行動（知る・察知する・行動する・学ぶ・備える）について、取り組み評価と課題をまとめられました。今後の士業連絡会への要望として、平時の事業の明確化と予算化を提言されました。

なお、講演資料は日本技術士会中国本部のHPに公開されます。



神戸大学名誉教授 室崎益輝先生



岡山県建築士会 塩飽繁樹会長



広島県社会福祉士会 三上和彦会長



広島弁護士会 砂本啓介先生



広島県会議員 西本博之先生



講演会場（広島弁護士会館）